レポートの例：『冬の日』より「月とり落す」の巻

　35　こがれ飛とぶたましゐ花の蔭に入いる　　荷兮かけい

 36 　その望の日をわれもおなじく　　　　　芭蕉

芭蕉は前句の人物を西行と見て取った。〽願はくは花の元にて春死なむそのきさらぎの望月のころ。西行はその通りに入寂したと伝える。芭蕉はそれにあやかって自分も同じ日に花の蔭で世を去りたいと望む。詩歌がもたらす感動はずしりと心にこたえる。（115字）